

●幼稚園どうちえん 同校内に御影幼稚園なる物設立しありどうちえん 何れ公務の餘暇を以て參觀の上通知する事とすいっ べし。

新刊紹介

●普通歴史唱歌 全三冊

齊藤斐草 作曲
鈴木米次郎 作詞

日本の部が一冊其他東洋の部西洋の部各一冊合せて三冊で全部となつて居る。著者の言によると、「無意な名詞を年代とを面白く連絡せしめ無限の興味を以て知らす」の間に歴史思想を養成せん」とするといふ事、至極よい思ひ付である。著者は、師範學校、中學校等で多年歴史教授の經驗を積まれた人で、本書が、普通のものに比して、史的事實の確實な事は最信する事が出来る。「史的事實の撰擇に重きを置き文字の彫琢にはあまり意を用ゐず」との事であるが、文章も中々立派である。其上鈴木氏の作曲は、實によく適合して再誦三誦措く能はざる感がある、中學生師範生には好個の吟料である。(發行所 神田區猿樂町二三 山海堂)

●少年世界文學 第十三編

さし、今度出たのは、名高い頼光四天王です。面白いことは受け合ひ、附録には冠者丸といふ、まことに可愛相な話がつて居ます(定價十二錢)

●水滸傳物語 上卷

通俗世界文學の第四篇で、彼の有名な大冊の水滸傳を僅々一二頁つゝの上下二巻とせられた其第一冊である。本編には百八人の豪傑の中、魯知深、武松の二人が精詳に寫し出されて居る(一冊二十錢 以上神田裏神保町九、富山房發行)

●家庭新聞 第三號 月二回發行

地方發行物としては、最も体裁の揃つた新聞で印刷から挿繪、中々立派なものである。論説、家庭、社會、學校と家庭小説、雜報、おとぎばなし等の諸欄一々面白くて有益な文字が多い、東京邊りの營業的印刷物などに比して、まことに床しい雜誌です(定價一ヶ月七錢五厘。發行所 熊本市南新坪井町二十三 家庭新聞社)

●兒童の歴史 前編

山本翠煙編

豫ねて、廣告に依つて、本書編述の企てのある事を知つて、頗る有益な事だと思つて、其出來の日を待ちに待つて居た所が、此頃編者翠煙君から愈出來たといつて一本を寄贈せられた。打ち見た所、自分が廣告で以て豫期したのよりは數倍の價値を認めた。先づ紙質表紙を始め一般の體裁が、思ひ切つて立派に出來た所は從來の日本製のものに比較して、殆んど別製の感がある。さて内容はどうかといふと、最初の口繪二枚一は西洋婦人、一は日本婦人何れも愛くるしい幼な兒を抱き上げた所は、見事なもの、次に普通の日誌に附録せるもの外に、兒童の生誕日時表、同生誕所名表、同命名表、父母肖像挿入表、同略歴表、同生亡日時表、同婚

婚日時表、系統一覽表を始め、其他父母血族に關して必要なる一切の諸表を悉く網羅して居る。夫から、育兒日誌は、出生後、六ヶ年、即ち小學校に入學するまでの間の日誌を記入する様に出來て居て、日々の欄は、天氣寒暖の他に、養育方法と精神發達とに分けて、尙體量、記入欄を設けて居る。尙全體に於て十二ヶ所に兒童の寫眞を挿む所が出來て居て、さて、終には、出生後、子供の費用に關する一切の支出一覽表が附いて居る。夫から、日記記入の方法に付いては、瀬川博士の指示せられた所は、まことに懇切なものである。紙數凡そ千三百餘頁、さて、内容外觀は大體右の様で、自分の考に依れば、殆んど遺憾がないといつてよい。

そこで、自分は此の如き書物の必要を一言紹介したいと思ふ。西洋では、元來子供の生育日誌などいふものは種々出來て居て、盛んに使用せられて居るが、我國では、實に本書が其先驅をなしたものだと思ふ。實に編者の言の如く、生誕の日から、子供の養育に親がどれ程苦心し、どれ程愛護したかを、生長の後に至りて、子供に事實的に知らせる事は、此日誌によりて始めて全くすることが出來て、從つて子供の親の高恩のどれ程大なるものかを知らせることが出來る。且つ又一般の婦人に取つては、自分の子を養育して行く上に、其養育の日誌を作つて、之を保育の參考にする事は最も必要なことであつて、之に依りて、一層子供の教育に注意する様になる。教育家は又た之で以て、實際兒童研究の材料が得られる譯のものである。從來とても子供の養育に注意せられる人は、各自に日誌を作つて居られるが、自分の知つて居る範圍内で

は、兎角永續しない様であるが、本書を控へて置けば、確に途切らせる心配はない、兎に角凡べての家庭には是非勧めたい。又出産祝などに、本書を進物とするが如きは、極めて嶄新なる方法だと思ふ。尙就學後の兒童日誌として本書の後編が出來る筈だ。又前編に關係なき就學後の日誌も出來るとの事である。(定價 最上製四圓、上製三圓五十錢 並製二圓五十錢 發行所 東京芝區櫻川町 明翠書院)

The world is full
of books

世界は

書籍の無盡藏なり